

「自立×つながり」でシニア世代を地域の担い手に（豊田市）

課題（状況）

- ・合併により都市と農山村が同居
- ・急速に進む高齢化（都市部でも）
- ・都市と農山村それぞれに固有の課題
- ・市民の地域での活躍の場不足

目標（数値）

- 都市と農山村が共生「暮らし満足都市」
- ・地域自ら考え、自ら動いて課題を解決（自立を促す地域自治システム）
 - ・都市と農山村を様々な主体と「つないで」課題解決を実践（おいでんさんそんシステム）

具体的取組

- ①・地域で課題解決を実践（地域で公募・評価－「わくわく事業」と「地域予算提案事業」
- ・「困ったことがあれば役所がやってくれる」→「地域ができることは地域で行う」
- ・地域間（まち・むら）・多様な主体間を繋いで課題を解決－「おいでんさんそんセンター」
- ③わくわく事業500万円、地域予算提案事業2,000万円（いずれも1地域あたり）
- ⑤地域住民の代表から成る「地域会議」で地域住民が自ら選定する－地域の個性を反映
- ⑥・多様な団体・人材の参加による地域会議での事業選定等予算・事業の自主的な運営
- ・地域間の情報共有・意思疎通を促進する多段階での会議開催
- ・前市長・現市長2人のリーダーの地域自治システム創出への強い意欲、専門部署の設置

・上流域6町村との広域合併…一律な施策に限界が生じた
・まちづくり基本条例・地域自治区条例制定

規制・環境変化

・「共働によるまちづくりの推進」、「都市内分権の推進」のため市長の権限に属する事務の一部を地域自治区に委ねる

解決

豊田市プロジェクト

- ①プログラム（行動）
- ②スケジュール
- ③予算
- ④専門人材
- ⑤推進・運用組織
- ⑥成功要件

地域資源
人材

支援政策
協力者

産学連携
技術

・地域会議に参加する地域の公的団体推薦者

特になし

・地域会議に参加する地域住民や地縁団体、老人クラブ、有志グループ等組織代表など

・企画行政や産業等に明るく、志と熱意を持った職員

結果（数値）

- ・都市部シニアとの共働による農山村部のコミュニティ機能の持続
- ・各地域の活動を「見せる化」することで他地区での活動を誘発（横展開）
- ・ソーシャルビジネス化等活動の自立化を育成
- ・「シニアは地域のコストではなく、担い手」という、ミライのフツーな価値観への転換

地域の変化

- ・参加者を中心に、「地域を自らよくしよう」という気運が広がり、若者や女性が積極的に委員に就任する等多様化してきている
- ・都市部と農山村部の住民が顔なじみになるなど心理的な距離も縮まりつつある

残る課題

- ・認知度のさらなる向上、参加者増
- ・事業の客観的な評価－補助金頼みでの事業を継続する団体も見られるなど質の向上が必要
- ・おいでん・さんそんセンターの自立とマンパワーの強化

次の行動

- ・認知度向上のための地道な広報
- ・地域への愛着や地域課題を問うアンケートによる定点観測
- ・交流事業等のコーディネート等事業拡大